

# 考えよう新城市政

あなたの声  
市政に届いていますか？



発行：市長リコールの会（仮称）

代表 太田恒久（☎ 22-3727）

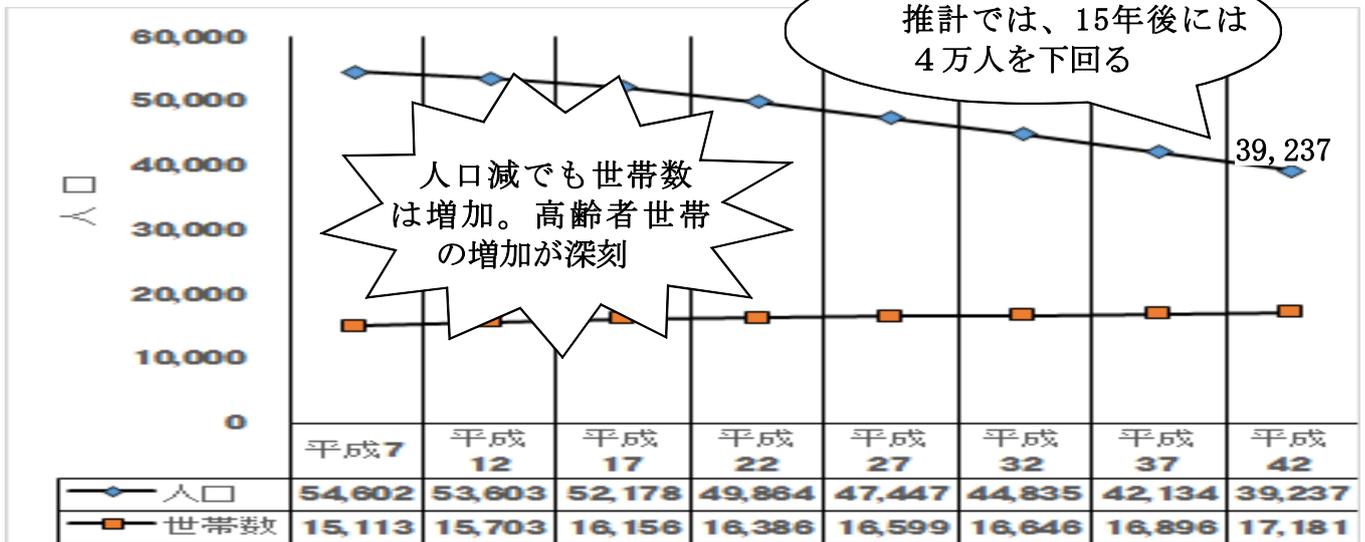
# 新都市の現状

データ出所

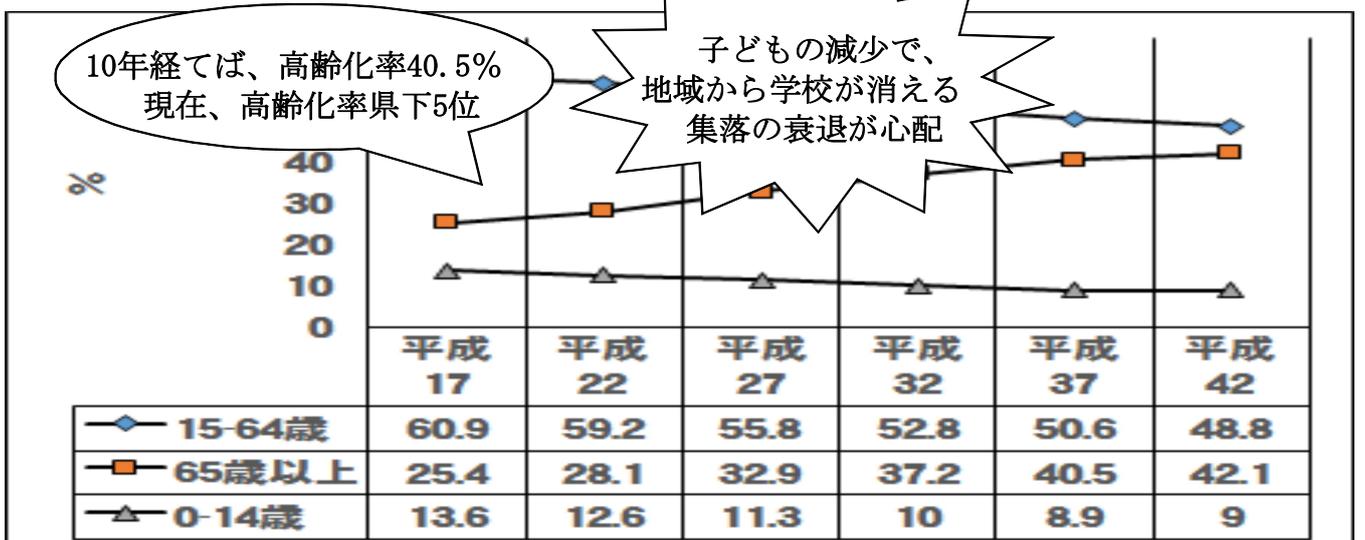
◇新都市住生活基本計画

◇新都市財政のはなし

## <人口・世帯数の推移と将来推計>

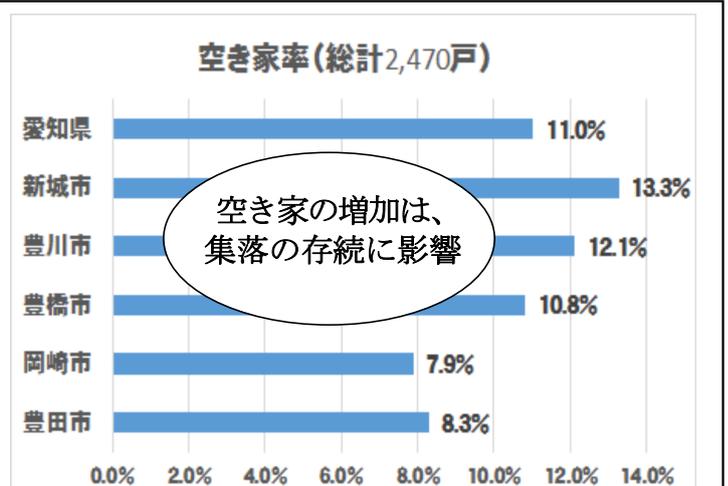
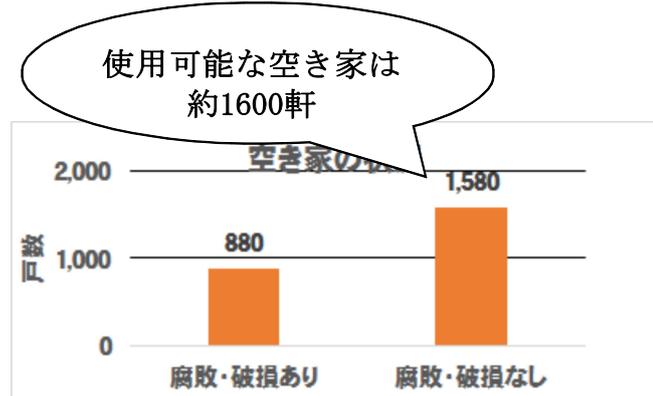


## <年齢構成の推移と将来推計>

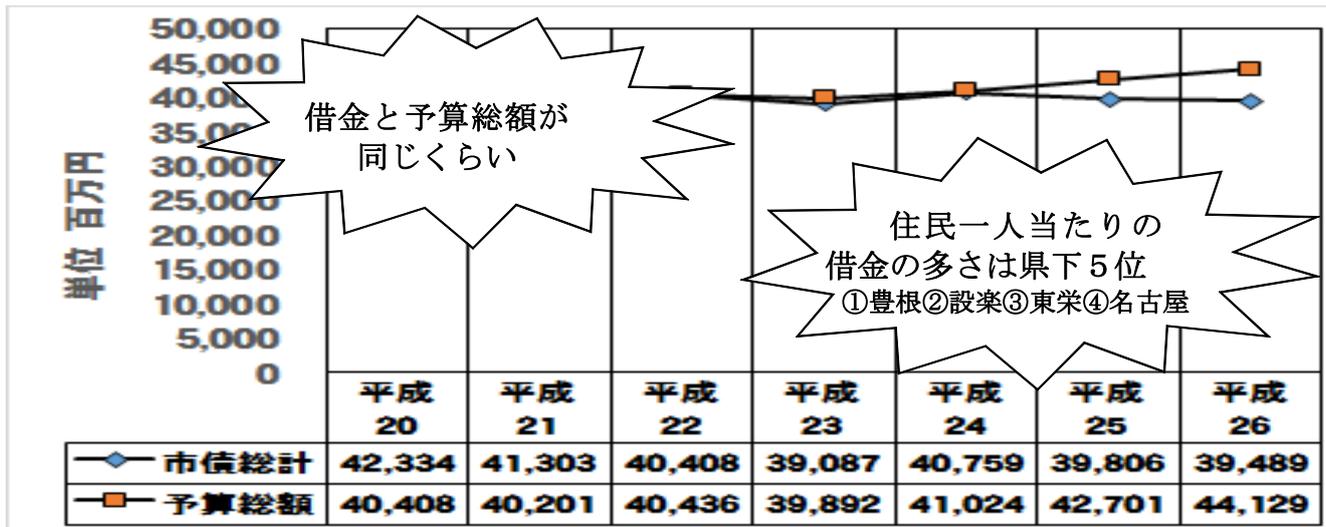


## <空き家の現状>

◇空き家の判断：所在地に住民票が無い建物。

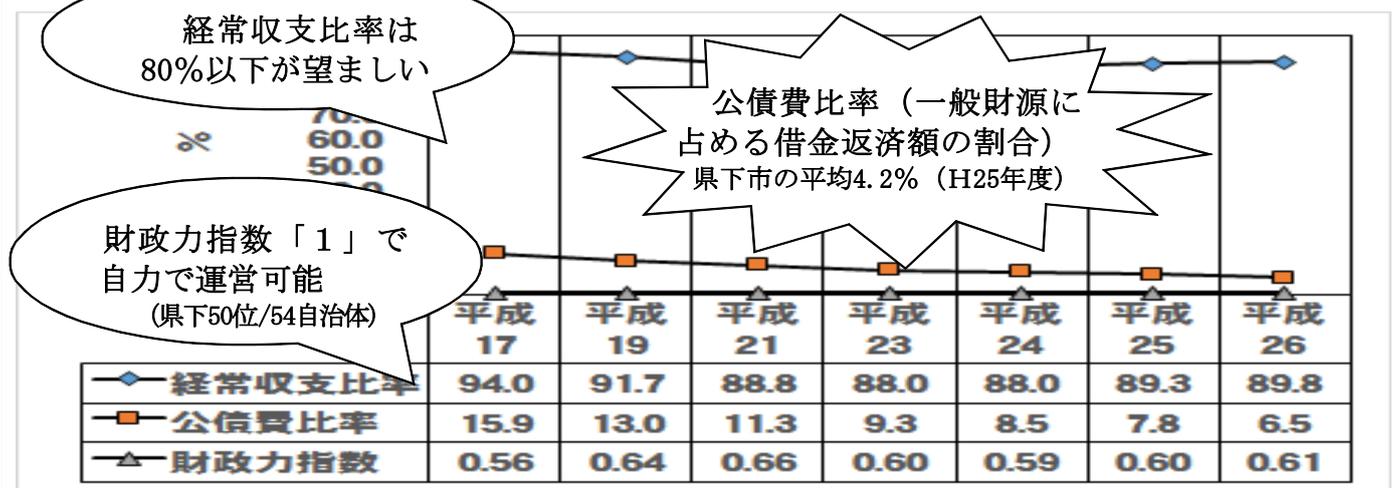


## <市債残高・予算総額の推移>

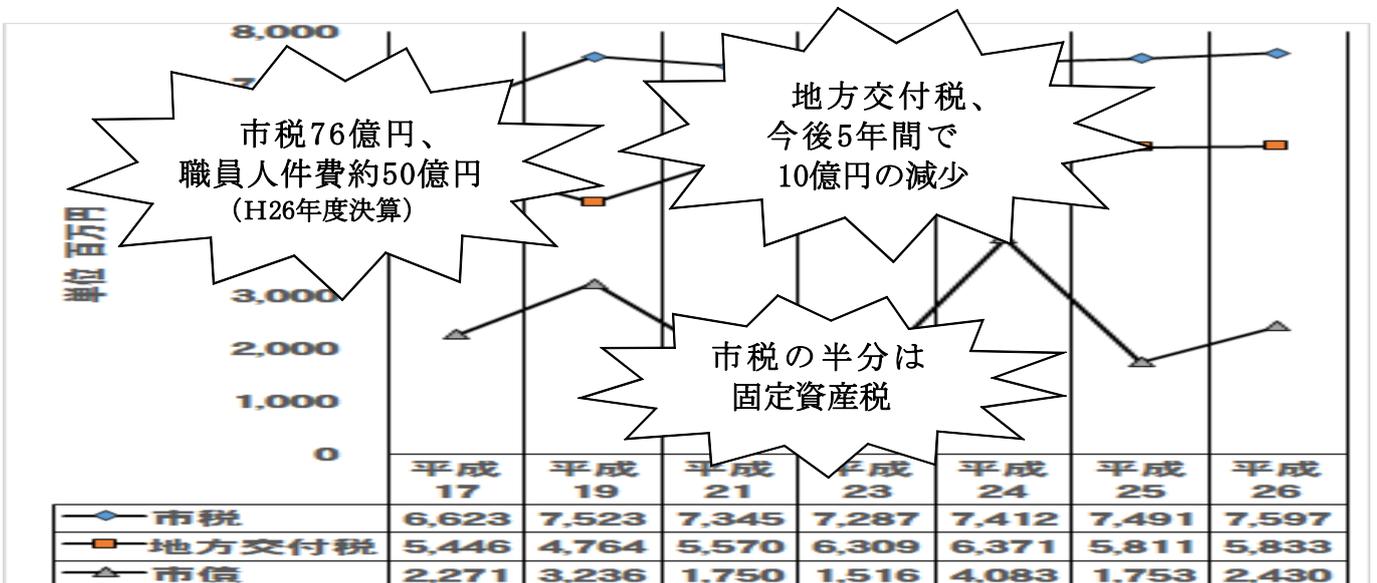


## <経常収支比率・公債費比率・財政力指数 推移>

◇経常収支比率とは：毎年決まって入る財源（地方税、地方交付税、地方譲与税など）と、決まって出ていく財源（人件費、扶助費、公債費など）との割合。



## <市税・地方交付税・市債（借金） 推移>



# 庁舎建設見直し運動が 残したものの



見直しはもう5年も経ちました

**Q.** 何で5年も見直しの声が市長に届かないの？

**A.** 納得できる説明は、市長からも議会からもありませんでした。何で市民にここまで負担を押しつけるのか不思議です。

市長選では新人に肉薄された

**Q.** 911票の小差でしたが、見直しを行いましたか？

**A.** 「一票でも勝ち勝ち。結論は出た」と、見直しの声は無視しました。

市長は、こんな豪華な庁舎を提案！



**Q.** この計画が示された時、何を思いましたか？

**A.** こんな豪華な庁舎は要らない。何でガラス張り、吹き抜け仕様、壁面への木製ルーバー・太陽光パネルが要るの？もっとコンパクトで良いと思いました。

穂積市長「豪華と言うのは誤解」！

**Q.** 穂積市長は、2年前の市長選後「豪華」という批判に何と答えましたか？

**A.** 「豪華と言うのは誤解」と強弁しました。市民は「豪華」と考えたから、見直しの声がここまで大

きくなったのです。自分の主張こそ正義だと言っているだけでは解決できません。

住民投票の署名、5日間で9600余  
分かりにくい選択肢で市民は困惑

**Q.** 住民投票の選択肢を何で分かりやすくしなかったのですか？

**A.** 本当に分かりにくい選択肢でした。多くの市民の「分かりやすくしてほしい」という声を聞かずに議会と市長が押し通しました。さらに、広報紙は市長が勝手に作りました。9600余の署名が集まった時、「みなさんの努力に敬意を表したい」との言葉にだまされ、住民投票が市長に振り回されました。

住民投票の差は3140票

**Q.** 住民投票結果はどうでしたか？

**A.** 求める会案12,899票、市長案9,759票でした。投票率は過半数(56.2%)を超え、市長案の支持票より3140票も多くの支持を集めました。

議員15人が結集しても多数得られず

**Q.** 議員18人の内、市長案支持が15人と聞いたんですが？

**A.** その通りです。議会と市民の意見が大きく食い違っていました。さらに穂積市長・峰野県議の支持団体、業界を総動員しても、市民の疑問に答えられなかったという結果でした。

住民投票結果は市長案にNO！

**Q.** 住民投票結果は、市長案にNOでしたよね？

**A.** その通りです。市長は、結果を真摯に受け止めると多くの市民は思いました。

## 住民投票が求めた 3 階建30億円

**Q.** 住民投票で求められたのは何だったのですか？

**A.** 多くの市民は 3 階建30億円を求めました。しかし、市長が提案した実務協議では、3 階建30億円の検証をしないまま、市長判断だけで 3 階建30億円を否定しました。見直しが進むと思いましたが、見事に裏切られました。

## 見直し後も庁舎規模変わらず

**Q.** 規模が縮小されたと聞いたのですが？

**A.** 住民投票後 5 ヶ月も経って、やっと見直し案を提案しましたが、ほとんど変わっていません。当初面積が約9000㎡、提案されたのは約8600㎡（東庁舎含む）です。本体建設費も当初約32億円が、30億円以内を目指すのです。3 階建30億円の検討は一度も行っていません。

## ごまかしの 40 億円

**Q.** 金額が大幅に下がったと聞きましたが？



**A.** 4 階建40億円と提案しましたが、積算基準を変えました。これまでの基準（庁舎南側敷地、東庁舎の改修費用などを含めていた）で示せば約45億円となります。市長案の見直し基準で考えれば、求める会の最新案は、3 階建30億円となります。

## 4 階建でも耐震設計で十分

**Q.** 大手設計会社の設計士の声は？

**A.** 「これなら大幅に建設費が下がりますね。免震構造の変更はないようですが、免震構造はのっぽビルがより有効で、4 階建なら耐震で十分ですね」と言っています。検討すべき問題は残っていますが、「見直ししない」との立場を少し変えました。やればできる見直しがあるのに、5 年間も見直しの声には耳を傾けませんでした。しかし、一方的に「選択肢②（求める会案）を全面採用した配置設計」と言い切るだけで、求める会と合意点（お互いの譲歩）を作ろうとはしませんでした。これまで同様、声を聞くふりしながら、結論を押しつけるだけです。

## 何回もの見直しチャンスを見逃す

**Q.** 5 年の間には見直しのチャンスがあったのでは？

**A.** 見直しのチャンスは何回かありました。地域住民が見直し運動を始めた時、合併特例債が東日本大震災を考慮して 5 年間延長された時、市長選で市民多数が見直しを求めていることが明らかになった時、住民投票に動き始めた時、市民の声を幅広く聞く気があれば、何年も前に話し合いで庁舎問題は解決していたと思います。

結局は、その都度その都度、市民を適当に扱い、声を聞くふりをしながら、自分の決めた方向にただけでした。どうしても変えたくない理由があるの？

## 法的に問題は何かない???

**Q.** 市長の対応は、傲慢と思えるのですが？

**A.** 傲慢そのものだと思います。「これまでの手続に法的な問題はない」と悪びれません。住民投票は、法的な問題を問うたのではなく、政策修正を求めたのです。「市民が主人公」と言うのであれば、市民と誠実に政策論争して欲しいものです。「自分は悪くない」と強調することは、「市民自治」を低めることにしかありません。政治的・道義的な責任を自覚して欲しいものです。

## 穂積市長の下では声を挙げる意味がない

**Q.** 今後、どうするのですか？

**A.** 市長の見直しスケジュールを見れば、結論ありきです。いくら見直しを求めても、これまで同様、「何でも言ってください。しかし、ほとんど変わりませんよ」で終わりでしょう。見直しは、次の市長に委ねるしかないと思います。「自治」を語りながら、自分に同調しない市民を切り捨てるかのような市長の政治手法の問題が見えています。

結局、庁舎建設だけを問題にするだけでは、新都市の将来不安は解消できないと考える様になりました。



# 庁舎建設問題だけでない 穂積市長10年の停滞



## 穂積市政でびっくりしたこと

### 産廃問題の責任はどこに

市長選後、産廃問題が表面化し、その後2年間の八名地区を中心とした産廃問題解決に果たすべき市長の姿が見えません。当初、産廃業者からの問合せに「進出には賛同できない」と返答したものの、その後不手際が重なり、競売で産廃業者が土地を取得してしまいました。大きな疑問「買戻し特約をなぜ簡単に放棄したのか？」は、未だに解消していません。市長は、県の見解を繰り返すだけ。

### もつくる新城の見積りミス、責任は不問

最終事業費約8億円、見積りミス2億3千万円。「単純なミス」と幕を引き、誰も責任は取りませんでした。構想当初、「足湯は費用対効果から採用しない」と判断していたのに、いつの間にか復活しました。これで維持管理費約1千万円です。「観光のハブステーション」と息巻いていましたが、ここが大問題。観光戦略が未だにあいまいです。

### 穂の香看護専門学校は見切り発車

平成26年4月に開校しました。新城大谷大学が約10年間で閉校し、その跡地に開学した学校ですが、「経営が成り立つのか？」という市民の心配を残しながらの決定でした。正規の家賃は月約600万円、実際は月100万円に優遇して誘致しましたが、新城市のメリットが見えません。



### 大善寺前の道路建設判断は穂積市長

「何であんな道作ったの？」という声が消えない大善寺前の道路。穂積市長が最終判断し、10億円を使いましたが、道を広げるだけでは、活性化するは

ずがありません。見通しも考えず、何十年前の計画にしがみついただけでは、中心市街地活性化は衰退するばかりです。箱物行政は過去の遺物です。

### 産科医派遣、年6千万円/人は迷走中

医療法人・葵鐘会から、医師2名を年1億2千万円で派遣してもらおうと議会に報告したのが、今年の2月。突然の提案でしたが、「早く決めないと、葵鐘会との話がなくなる」と話し合いの余地なし状態でしたが、既に12月。市民から疑問の声が噴出し、計画は白紙状態。思いつきの政策提案でした。

## 穂積市政で何か変わったか？

### 毎年500人減、人口減は成り行き任せ

多くの自治体が人口減少に悩んでいます。しかし、人口減少に歯止めをかけた自治体はあります。それらの自治体は独自の努力をしています。

周辺部の衰退は深刻になるばかりです。合併後、鳳来地区の小学校は、9校が5校に、作手地区では、4校が1校に減少します。学校が無くなれば集落の存続が困難になるのは目に見えています。

推計通り推移すれば、平成37年には、15歳未満が約9%、65歳以上が約41%となります。

結果は正直です。10年間に有効な政策がなかったから、人口減に歯止めがかからなかったのです。

### 成長の実感なし

若者の雇用が増えていないので、若者の流出は止まりません。中心市街地と言われる新城地区商店街は、年々閉店が増えています。

農林業者の高齢化は止まらず、農林業では生計が成立しない状況は変わっていません。企業誘致は頭打ち状態で、南部企業団地への進出企業のメドがないまま、新東名開通を期待してのIC周辺企業団地

造成に踏み出そうとしています。

具体的な政策なしで「新東名が開通すれば何とかなる」と叫ぶだけでは、多くの市民は成長の実感を持ってないでしょう。

## 中心市街地さえ店が消えている

今のままでは、市内の商店街は壊滅状態になりかねません。国の補助金を頼り、平成13年に基本計画を作成していますが、ほとんど効果を挙げないまま推移しています。一時、話題になった市と市民の共同出資会社「山湊」は消え、残っているのはまちなみ情報館と大善寺前の箱物道路だけです。

穂積市長になり平成21年に基本計画を改訂したものの、具体的な成果はありません。

## 歴史を活かしたまちづくりを放棄？

計画を作る度に「長篠設楽の戦い」を活かしたまちづくりを強調してきましたが、未だに活かし方が具体化されていません。市長のリーダーシップがないから、重要な資源が活かされなかったのです。

## 若者の働き場所はどうするの？

若者の働き場所が増えなければ市の活力は生まれません。穂積市長からは具体的な対応策が出てきません。10年間の停滞がそれを語っています。

時代は「田園回帰」「地方の時代」を求めています。田舎の資源を活かし、若者を獲得している自治体が生まれています。あきらめない地域づくりが、可能性を広げるのです。穂積市長にその認識が感じられません。

## 自治を叫ぶだけでは何も進まない

「地域の事は地域住民が責任を持つ」、重要なポイントです。穂積市長への期待も「自治」を掲げた姿勢にありました。しかし、住民投票に見られるように、穂積市長の「自治」は、自分に都合の良い範囲での「自治」なのです。

若者議会、女性議会、地域自治区などの市民参加を進めてきましたが、予算ありきのお任せでは、いい知恵も出ようがありません。



# 後2年を考える

## 任期は後2年

Q. 穂積市長に問題があっても、後2年待てばいいのではないですか？



A. 後2年が心配です。今後予定の事業は、IC周辺企業団地開発、鳳来総合支所周辺開発、駅前開発等の合併特例債絡みの事業（庁舎を含めれば計百億円前後）が控えています。市長が提案すれば、今の議会では素通りしてしまいます。市民の疑問を残し、将来展望がないまま補助金・箱物行政に突き進む可能性があります。心配は、借金と維持管理費です。後は野となれ山となれでは困ります。

## 改革は早ければ早いほど良い

Q. 期待しても良いと思うのですが？

A. もう、10年待ちました。何が変わったのでしょうか？結果は出ているのです。「自治」という耳順りの良い言葉で期待を持たただけで、新城がどこに向かっているかわかりません。

消滅可能性都市の汚名返上のためにも、少しでも早く市民議論を巻き起こす必要があります。

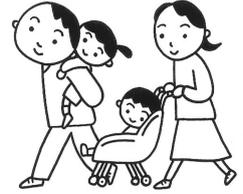
## 市長リコールを市民が望んでいるか

Q. 市民の中に市長リコールまでは行き過ぎという声があると思うのですが？

A. 市長リコールは、より多くの市民が新城の将来像を考え、そのための行動を起こすことです。当然、穂積市長が感情的に嫌だから進めるものではありません。庁舎建設の見直しを長年続けてきた市民に対しての対応のひどさがきっかけになっていますが、結局は、穂積市長の市長としての資質を問わざるを得なくなったのです。

市長リコールは、有権者の1/3の署名が必要です。大変な取組だからこそ、多くの市民が新城市の夢を議論する絶好の機会ともなります。納得できないことに、あきらめるのではなく、自ら解決する市民になるための行動です。

# 市民のみなさんに お願いしたいこと



- ◇私たちは、新城市の現状を考え、目指すべき道を自ら決めます！
- ◇市長リコールは、お任せ市政から、自分たちが託すにふさわしい市長を創る取組です。
- ◇市長リコールには、有権者の1/3以上の署名が必要です！  
**受任者（署名を取る人）登録をお願いします。**

※枠内の項目ご記入の上、最寄りの会員へ渡して頂くか、FAXまたは郵送でお送りください。

※FAX送付先 0536-23-5830（このページをそのままお送りください）  
※郵送先 〒441-1383 新城市字東入船13  
市長リコールの会（仮称） 代表 太田 恒久（22-3727）

市長  
リコール  
署名

## 受任者登録申込書

(フリガナ)

氏名 \_\_\_\_\_ 性別： \_\_\_\_\_ 男 ・ 女

生年月日：明・大・昭・平 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

住所 〒441- \_\_\_\_\_ 新城市 \_\_\_\_\_

☎ \_\_\_\_\_ e-mail \_\_\_\_\_

前回の住民投票の受任者に 登録 ・ 未登録 担当 ( \_\_\_\_\_ )